

令和3年12月7日

(あて先)熊本市長

団体名 KUMAMOTO フードツーリズム研究所
代表者 職名 代表 氏名 新田 時也



熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

令和3年4月/日付け指令(地活)第1-4号により、熊本市市民公益活動支援助成金の交付決定を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第21条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名

くもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業

コロナ禍だからこそ「美味しい料理」を作ろう！食べよう！

2 助成事業の実施期間

令和3年5月/日 ~ 令和3年12月/日

3 助成事業の内容

コロナ禍はテーク・アウトの需要を増し、外食を避けて、内食への転換をもたらした。家庭内での飲食が増える中、コロナ禍だからこそ、ひと手間をかけて、美味しい料理のレシピが、各家庭で生まれたと思われる。本事業では、ひと手間かけて美味しく、簡単にできるレシピを募集し、レシピを冊子にまとめ、実演での講習会を開催した(1回)。

4 事業の成果

レシピは、数点の募集があり、4点を採用した。講習会には、「ひとり親家庭」からの参加が多く、そのため、当初予定の参加費よりも減額の措置をした。講習会は盛況のうちに終了。関係施設に、冊子にしたレシピを配布。本団体でのホームページでも、レシピを公開している。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書(様式第16号)
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業収支決算書

◆収入決算

項 目	金 額	内 訳
会費		
当該事業による収益	8,000 円	5 名 × @1,000 円 + 6 組 (ひとり親) × @500 円
当該事業に対する寄附・協賛金	722 円	
その他の自己資金		
当該事業に対する助成金額	100,000 円	
その他の補助金、助成金等【D】		
合 計	108,722 円	

◆支出決算(事業別)

事業名 支出費目	事業1	事業2	事業3	合計
	くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会 ファンド」助成事業 コロナ禍だからこそ「美味し い料理」を作ろう！食べよう！			
人件費	5,000 円			5,000 円
報償費	10,000 円			10,000 円
旅費				
人件費等合計【A】	15,000 円			15,000 円
役務費	4,800 円			4,800 円
使用料・賃借料	18,000 円			18,000 円
事務・消耗品費	20,922 円			20,922 円
委託費	50,000 円			50,000 円
合計	108,722 円			108,722 円

助成申請上限額(助成種別: スタートアップ助成)

[事業費 108,722 円 - 控除額【E】 0 円] × 10 割 = 108,722 円

※控除額…超過人件費(人件費等の合計が事業費の 1/2 を超えた部分)とその他助成金の合計

人件費等の合計【A】	15,000 円	➤	超過人件費【C】※	▲39,361 円
事業費の 1/2【B】	54,361 円		その他助成金【D】	
超過人件費【A-B】…【C】	▲39,361 円	→	控除額【E】	0 円

※マイナスの場合は0円

◆支出内訳(事業別)

事業1〔 くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業

コロナ禍だからこそ「美味しい料理」を作ろう！食べよう！〕

人件費	料理サポート(新田、前田、藤元、小山)、5,000 円。
報償費	料理指導(松岡)、10,000 円。
旅費	
役務費	切手(日本郵便)、4,800 円。
使用料・賃借料	料理教室、会議室(西部ガス)、18,000 円。
事務・消耗品費	食材(鈴の家)、20,922 円。
委託費	レシピ冊子作成(北原)、50,000 円。

事業2〔 〕

人件費	
報償費	
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	

事業3〔 〕

人件費	
報償費	
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	

事業報告書

実施年度	令和3年度
事業名	くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業 コロナ禍だからこそ「美味しい料理」を作ろう！食べよう！
事業期間	令和3年5月 / 日 ~ 令和3年12月 / 日
事業の目的	コロナ禍はテーク・アウトの需要を増し、外食を避けて、内食への転換をもたらした。家庭内での飲食が増える中、コロナ禍だからこそ、ひと手間をかけて、美味しい料理のレシピが、各家庭で生まれたと思われる。本事業の目的は、美味しいレシピを共有することで、いつまで続くのか見通しの立たないコロナ禍と対峙するところに目的がある。
具体的な事業内容	本事業では、ひと手間かけて美味しく、簡単にできるレシピを募集し、レシピを冊子にまとめ、実演での講習会を開催した(1回)。レシピは、数点の募集があり、4点を採用した。講習会への参加は、SNS以外に、郵送でポスターやチラシを送付した。「図書館および個人」に対して、令和3年9月15日と11月1日の2回に渡り、20通ずつ(計40通)。講習会には、「ひとり親家庭」からの参加が多く、そのため、当初予定の参加費よりも減額の措置をした。講習会は盛況のうちに終了。関係施設に、冊子にしたレシピを配布。当団体でのホームページでも、レシピを公開している。
実施場所	ショールームヒナタ熊本(熊本市中央区下通1-3-8下通NSビルCOCOSA 5階)
協力団体	東海大学熊本キャンパス「食」の文化と経済学 研究室。
事業の効果・公益性	コロナ禍で生まれた各家庭のレシピを集め、精査し、4点を選んで実演講習を行ったことで、参加された皆様の「こころ」の中に、おいしいものを簡単に料理して、コロナ禍に打ち勝とうとする意欲が強まったと思われる。当団体のホームページでもレシピと講習会の様子は公開しているので、同様の効果が、広く伝わったと思われる。
次年度以降の事業展望	コロナ禍は、いつまで続くのか見通しが立たないが、今回、実施した事業を試金石として、コロナ禍をプラスに考え、熊本市発のコロナ禍対抗のレシピ冊子をさらにまとめていきたい。
事業への想い (当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	コロナ禍のレシピというだけではなく、今回の事業の成果として、災害時のレシピとしても使える可能性が見えてきた。食品ロスの対策にも一躍となるはずである。食のSDGsを、ひとりひとりが真剣に考える熊本市に育てていきたい。